

令和 3 年度に安芸高田市立中学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

安芸高田市教科用図書採択地区選定委員会

観点 1	基礎・基本の定着
観点 2	主体的に学習に取り組む工夫
観点 3	内容の構成・配列・分量
観点 4	内容の表現・表記
観点 5	言語活動の充実

教科名	数学
第 1 推薦	1 1 学図
第 2 推薦	1 0 4 数研

(数学) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる 観点	主 たる 特 徴
2 東書	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習内容の導入で、「Qマーク」を示し、学習の手掛かりになる問いかけを示している。</li> <li>例と類似する間には◆印をつけ、例題を参考できるようにしたり、例の横に「ちょっと確認」を配置し、既習事項を確認できるようにしたりしている。</li> <li>節末の「基本の問題」では、理解が不十分な場合には本文の例に戻れるように関連する箇所を明記している。</li> <li>巻末の「補充の問題」では、「問」と対応した問題をくり返し練習することで、基礎・基本が確実に身に付くようにしている。</li> </ul>
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例、反比例」「データの活用」） 「比例、反比例」… 1 9、「データの活用」… 1 4</li> <li>巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年… 1 3、2年… 1 1、3年… 1 0 合計… 3 4</li> <li>第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫について (見通しをもたせる工夫) 小学校の内容を活用して自分の考えをもたせる。 (論理的に考察する工夫) 多様な考えを比較させ、基となる考え(三角形の内角の和は<math>180^\circ</math>)に気付かせる。 表を活用し、帰納的に考えることできまりを見いださせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考えさせる。</li> </ul>
	観点 3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2次方程式の解法は「平方根の考え」→「解の公式」→「因数分解」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年ページ数 250 P、2年ページ数 196 P、3年ページ数 228 P</li> </ul>
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」 ○イラスト数 18 <ul style="list-style-type: none"> <li>斜面で球を転がしたときの、1秒ごとの球の位置</li> <li>ピサの斜塔からガリレオがボールを落下させている図 など</li> </ul> </li> <li>○写真数 9 <ul style="list-style-type: none"> <li>ジェットコースター (3)</li> <li>パラボラアンテナ</li> <li>噴水</li> <li>花火</li> <li>公園内水飲み口の水の軌跡</li> <li>上記写真とグラフのすり合わせ</li> <li>渋滞の様子</li> </ul> </li> </ul>

	<p>観点5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な場面の課題について、数学的な表現を用いながら、対話を通して解決していく場面を設定するとともに、社会とのつながりを知る機会を設けている。</li> <li>&lt;具体例&gt; 2年「データを比較して判断しよう」 コンビニエンスストアの店長が、花見の時期にどんな商品がよく売れるかを調べるためにヒストグラムや箱ひげ図を用いる場面を設定している。</li> <li>各学年の巻頭の「大切にしたい数学の学び方」で、ノートづくり方を示している。その具体例として単元途中に「数学マイノート」のページを設け、生徒のノートを例示し、書き方の工夫や学習の感想について示している。また、「学びをふり返ろう」で学んだことのまとめ方を例示している。</li> <li>&lt;記述ページ数&gt;</li> </ul> <table border="1" data-bbox="564 555 1023 707"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	6	2	2	3	2	3	3	3
学年	ノート	レポート												
1	6	2												
2	3	2												
3	3	3												
<p>4 大日本</p>	<p>観点1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初に学習のめあてを示して、具体的な学習活動を明記している。</li> <li>「プラス・ワン」を「Q」の後に設け、さらに練習するための問題を設けている。</li> <li>章末問題以外に「力をのばそう」を設けている。</li> <li>巻末の「補充問題」では学習の見直しをするために、問題の横に学習した場所のページ数が記載されている。</li> </ul>												
	<p>観点2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例、反比例」「データの活用」「比例、反比例」…27、「データの活用」…18）</li> <li>巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…10、2年…9、3年…9 合計…28</li> <li>第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫 (見通しをもたせる工夫) 考え方の例を示して、内角の和の求め方に気付かせる。 (論理的に考察する工夫) 表をもとに、着目すべき点を明確にしなが、スモールステップできまりに気付かせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考えさせる。</li> </ul>												
	<p>観点3</p>	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連立方程式の指導順番が加減法→代入法になっている。</li> <li>2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年ページ数 264 P、2年ページ数 202 P、3年ページ数 246 P</li> </ul>												
	<p>観点4</p>	<p>イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」</p> <p>○イラスト数 22</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1辺が10 cmの正方形の対角線上に、1つの頂点をそろえて1辺がx cmの直角二等辺三角形を折り返し、10 cmからx cmをひいた差をy cmとした図</li> <li>同時にスタートし、自転車に乗った1人が、走っているもう一人を追いかける様子 など</li> </ul> <p>○写真数 7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>投げたボールの軌跡 ・パラボラアンテナ</li> <li>ソーラークラッカー・懐中電灯の反射板 ・振り子の軌跡</li> <li>製薬会社研究員佐藤さんの写真 ・佐藤さんの実験の様子</li> </ul>												

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な場面から課題を見出し、見通しをもちながら情報を収集し、数学的に処理をすることを通して、課題解決をする機会を設けている。</li> </ul> <p>&lt;具体例&gt;</p> <p>2年「データの比較と箱ひげ図」 日本と外国のバレーボール選手の身長を箱ひげ図で比較する場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「研究をしよう」「レポートを書こう」として、生徒のレポートを例示し、書き方を説明している。</li> </ul> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="1" data-bbox="564 439 1023 591"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	1	3	2	1	2	3	1	2
学年	ノート	レポート												
1	1	3												
2	1	2												
3	1	2												
11 学図	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの節において最初に目標が設定され、終わりに新たな問題発見が設定されている。</li> <li>章を分けるそれぞれの節のはじめに、この節で何を学習するか明確にしている。</li> <li>文中の導入問題や例題で、小学校算数やこれまでの学習を適宜振り返ることができるように、側注として「ふりかえり」を提示している。</li> <li>章のまとめの問題では、問題の程度によって基本、応用、活用に分かれている。</li> </ul>												
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例、反比例」「データの活用」「比例、反比例」…36、「データの活用」…24</li> <li>「QUESTION」として示された問いの横に、「見方・考え方」が提示されている。</li> <li>巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…8、2年…8、3年…8 合計…24</li> <li>第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫について（見通しをもたせる工夫） 小学校の内容を活用して自分の考えをもたせる。（論理的に考察する工夫） 表を活用し、帰納的に考えることできまりを見いだし、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。 さらに多角形の分け方の多様性に気付かせそれらを統合させる。</li> </ul>												
	観点 3	<p>（構成・配列）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。</li> </ul> <p>（分量）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年ページ数 254 P、2年ページ数 206 P、3年ページ数 245 P</li> </ul>												
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」 ○イラスト数 22 <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートした1人が、走っている1人に追いつく様子</li> <li>正方形の辺上の2つの動点とそれを結んでできる直角三角形など</li> </ul> </li> <li>○写真数 10 <ul style="list-style-type: none"> <li>投げ上げたボールの軌跡 ・飛行機の先端</li> <li>両端を固定したくさり自然に垂れ下がった様子</li> <li>パラボラアンテナ ・落下するボールの軌跡</li> <li>リレーのバトンパスの様子 ・観覧車 ・風力発電の風車</li> <li>数学者 岡潔 ・急停車する自動車</li> </ul> </li> </ul>												

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いをベースにして課題発見から課題解決の流れを設定している。さらに新たな課題を発見する過程を示すことで、対話的な学びが実現できるようにしている。</li> <li>＜具体例＞ 2年「データの分布」 5年間の日ごとの最高気温のデータを示し、1月から3月の間にメルボルンへ旅行に行くときの服装を考える場面を設定している。</li> <li>・各学年の巻末に「表現する力を身につけよう」で説明しており、生徒のレポートを例示し、書き方を説明している。</li> <li>＜記述ページ数＞</li> </ul> <table border="1" data-bbox="571 488 1024 640"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	5	3	2	4	3	3	5	3
学年	ノート	レポート												
1	5	3												
2	4	3												
3	5	3												
17 教出	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・章の最初に確認事項としての問題を設けている。</li> <li>・「数学の広場」として学習内容を深めたり広げたり、日常生活や他教科の学習に生かすような内容が明記されている。</li> <li>・章末には学習のまとめとして、その章で学習した内容について振り返るページが記載されている。</li> <li>・巻末問題は、学習した時の内容とリンクしており、ページが記載されている。</li> </ul>												
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例、反比例」「データの活用」「比例、反比例」…31、「データの活用」…18</li> <li>・巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…6、2年…6、3年…7 合計…19</li> <li>・第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫 (見通しをもたせる工夫) 小学校の内容を活用して自分の考えをもたせる。 (論理的に考察する工夫) 表を活用し、帰納的に考えることできまりを見いださせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。</li> </ul>												
	観点 3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年ページ数 265 P、2年ページ数 216 P、3年ページ数 237 P</li> </ul>												
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」</li> <li>○イラスト数 13 <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面でボールを転がしたときの、<math>x</math> 秒後のボールの位置</li> <li>・正方形の辺上の2つの動点とそれを結んでできる直角三角形など</li> </ul> </li> <li>○写真数 6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・噴水</li> <li>・投げ上げたボールの軌跡</li> <li>・パラボラアンテナ</li> <li>・懐中電灯</li> <li>・札幌市中心部</li> <li>・ガリレオ・ガリレイ</li> </ul> </li> </ul>												

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学を活用して調べたことをレポートにまとめる活動を取り上げ、数学的な表現力を育成するとともに、他者とのコミュニケーションを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;具体例&gt;</p> <p>2年「データの分析」 花粉の過去の飛散量を調べる場面を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元途中に「工夫してノートを書こう」のページを設け、生徒のノートを例示し、書き方の工夫について示している。また、各単元の章末、章の学習のふり返りに関する生徒のノートを例示している。</li> </ul> <p>&lt;記述ページ数&gt;</p> <table border="1" data-bbox="571 443 1027 595"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	11	1	2	10	1	3	11	1
学年	ノート	レポート												
1	11	1												
2	10	1												
3	11	1												
61 啓林館	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明しよう」、「話し合おう」、「まとめよう」において、理解を深めたり、学びを広げたりする活動が設定されている。</li> <li>・既習の内容をもとに新しい学習内容につなぐ、「ひろげよう」を設定している。</li> <li>・節末問題の代わりに小さい単元ごとに練習問題が明記されており、帯のところについての問題が明記されている。</li> <li>・巻末「もっと練習しよう」の問題については、その章のどこで学習したか問を明記してある。</li> </ul>												
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例、反比例」「データの活用」 「比例、反比例」…29、「データの活用」…14</li> <li>・巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…14、2年…11、3年…15 合計…40</li> <li>・第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫について (見通しをもたせる工夫) 考え方の例を示して、内角の和の求め方に気付かせる。 (論理的に考察する工夫) 表を活用し、帰納的に考えることできまりを見いださせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。</li> </ul>												
	観点 3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式の解法は「平方根の考え」→「解の公式」→「因数分解」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年ページ数 241P、2年ページ数 184P、3年ページ数 216P</li> </ul>												
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」</li> <li>○イラスト数 10 <ul style="list-style-type: none"> <li>・合同な2つの直角三角形の重なりが変化している様子</li> <li>・斜面を転がるボールが <math>x</math> 秒後に <math>y</math> mの距離を転がった図など</li> </ul> </li> <li>○写真数 8 <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面で転がるボールの0.1秒ごとの位置</li> <li>・落下するボールの軌跡 ・カーリングのハウス</li> <li>・投げたボールの軌跡(2) ・走り幅跳びの選手の跳んだ軌跡</li> <li>・ふりこ時計 ・ピサの斜塔</li> </ul> </li> </ul>												

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「説明しよう」、「話し合おう」、「まとめよう」などの活動を設定し、学習した内容や 自らの考えをまとめたりふり返ったりするなどして、理解が深められるようにしている。</li> <li>＜具体例＞ 2年「箱ひげ図とデータの活用」 昔に比べて気温が高くなっていることを調べるために、東京での5年間の最高気温のデータを示し、箱ひげ図から予想が正しいかどうかを調べる場面を設定している。</li> <li>・第1学年「データの活用」で調査したことをレポートにまとめた具体例を示している。また、各学年の巻末「自分から学ぼう編」の中で、レポートの具体例を示している。</li> <li>＜記述ページ数＞</li> </ul> <table border="1" data-bbox="571 524 1029 674"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	学年	ノート	レポート	1	7	3	2	3	2	3	4	2
学年	ノート	レポート												
1	7	3												
2	3	2												
3	4	2												
104 数研	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Note」としてノートをとるときの具体的な注意点を記載している。</li> <li>・それぞれの単元において、学習する内容が明記してある。</li> <li>・別冊ノートがついており、教科書には探究ノートと関連する内容があることを記している。</li> <li>・その章の最終ページに内容に関連する話題や、学んだ内容を深める活動を取り上げている。</li> </ul>												
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例、反比例」「データの活用」 「比例、反比例」…17、「データの活用」…18</li> <li>・巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…11、2年…12、3年…13 合計…36</li> <li>・第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫 (見通しをもたせる工夫) 考え方の例を示して、内角の和の求め方に気付かせる。 (論理的に考察する工夫) 表を活用し、帰納的に考えることできまりを見いださせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。</li> </ul>												
	観点 3	<p>(構成・配列)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末問題の記載数が最も多い。</li> <li>・2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。</li> </ul> <p>(分量)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年ページ数 250P、2年ページ数 198P、3年ページ数 250P</li> </ul>												
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト・写真の数と具体例 3年「関数 <math>y=ax^2</math>」</li> <li>○イラスト数 13 <ul style="list-style-type: none"> <li>・底面が1辺 <math>x</math> cmで、高さが5 cmである正四角柱</li> <li>・長方形の辺上の2つの動点とそれを結んでできる直角三角形など</li> </ul> </li> <li>○写真数 9 <ul style="list-style-type: none"> <li>・噴水 ・花火 ・斜面で転がるボールの1秒ごとの位置(2)</li> <li>・パラボラアンテナ ・宅配の様子 ・観覧車</li> <li>・バスの運転手横に設置してある運賃表 ・紙を半分に切る様子</li> </ul> </li> </ul>												

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実・方法・理由などを説明する問い、自己の考えを他者に伝える機会を多く設定している。</li> <li>＜具体例＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>2年「データの活用」</li> <li>4年間の体力テストの結果から、体力が以前に比べてどのように変化しているかを調べる場面を設定している。</li> </ul> </li> <li>・「Note」で数学的な表現を書くときの具体的な注意点を示している。また、「調べよう」で、学んだ内容を深める活動を取り上げ、生徒のノートを例示している。</li> <li>＜記述ページ数＞ <table border="1" data-bbox="571 443 1024 591"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>ノート</th> <th>レポート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> </li> </ul>	学年	ノート	レポート	1	8	2	2	4	2	3	3	3
学年	ノート	レポート												
1	8	2												
2	4	2												
3	3	3												
116 日文	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の章の予習として「次の章を学ぶ前に」が明記されている。</li> <li>・それぞれの単元においてめあてが明記されている。</li> <li>・その学習で身につけたい数学的な見方・考え方が明記されている。</li> <li>・見開きの右ページの下に「次の課題」として、新たな問題が明記されている。</li> </ul>												
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や社会に関わる題材数（1年「比例、反比例」「データの活用」「比例、反比例」…30、「データの活用」…17</li> <li>・巻末及び別冊で取り扱われている問題数（各単元の学習を活用する問題、複数の単元や領域の学習を総合的に活用する問題、生活の中で活用する問題、興味・関心や習熟に応じた問題） 1年…5、2年…6、3年…6 合計…17</li> <li>・第2学年の「多角形の内角の和」における学習展開の工夫（見通しをもたせる工夫） 考え方の例を示して、内角の和の求め方に気付かせる。（論理的に考察する工夫） 表をもとに、着目すべき点を明確にししながら、スモールステップできまりに気付かせ、公式を考えさせる。 多角形の分け方を変えて発展的に考え説明させる。</li> </ul>												
	観点 3	<p>（構成・配列）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式の解法は「因数分解」→「平方根の考え」→「解の公式」の配列になっている。</li> <li>（分量）</li> <li>・1年ページ数 252 P、2年ページ数 196 P、3年ページ数 226 P</li> </ul>												
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラスト・写真の数と具体例</li> <li>3年「関数 <math>y=ax^2</math>」</li> <li>○イラスト数 15 <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面でボールを転がしたときの、1秒ごとのボールの位置</li> <li>・台形の辺上の2つの動点とそれを結んでできる直角三角形など</li> </ul> </li> <li>○写真数 3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面にボールを放り投げた様子</li> <li>・パラボラアンテナ</li> <li>・懐中電灯</li> </ul> </li> </ul>												

観点5

・問いの傍に「話し合おう」や「説明できるかな?」のように活動内容を示し、数学的な思考力、判断力、表現力等を養うことができるようにしている。

<具体例>

2年「データの分布と確率」

大阪の猛暑日が増える傾向にあるかを調べるために、四分位範囲などを用いる場面を設定している。

・巻末の「対話ノート」は、記入後にノートに貼れるようにしている。

<記述ページ数>

学年	ノート	レポート
1	5	5
2	5	2
3	5	4

